

# 家庭は 明るく暖かく



ここに紹介する作文は、ある県の作文コンクールで小学五年生の女の子が発表し、多くの参加者に感動を与えたものです。

「うちの母ちゃんは、本当にあわてもので、いつも失敗ばかりしています。炊事と洗濯を一緒にするから、煮物の途中でシャツを乾かさうとして煮物がふきこぼれ、火を止めに行こうとすると、竿に通したシャツが地面に放り出されます。シャツは泥んこ、煮物のナベはひっくり返ってだいたいです。」

すると母ちゃんは、ひょうきんにすぐおどけて謝ります。『こんな私で悪かったです。ごめんね父ちゃん、カンベナ』すると父ちゃんは『バカだなあ』と言って笑います。



と結婚して子供を産みます、家中そそっかしい一家で、今の私の家のように明るく楽しい家庭にしたいと思

## 教育・文化講演会



います。父ちゃん母ちゃん、その時まで元気でいてくださいね」  
いかがでしょう。そそっかしい両親、でも家庭は明るいですね。こんな家庭から豊かな人間性は育つていくのではないのでしょうか。

### 生活にリズムをつけ、無理のない計画を

### 夏休みは「自己確立」をめざすシーズンに

計画だおれにならないように、家族団樂の時をもとう  
享樂的にならないような工夫を  
友達と楽しく過ごそう  
帰宅時間・行き先をはっきりと  
野外活動や自然観察も  
指導者のもとルールを守って  
地域での団体活動や奉仕活動へも参加  
高学年生はリーダーに

- 日時 八月三十日(水) 午後二時
  - 会場 文化センター
  - 講師 松浪 健四郎氏 (専修大学教授)
  - 演題 世界の家庭教育比較論 「所違えば、しつけ方も こんなに違う」
- 皆さん是非御参加下さい。

発行  
鯖江市教育委員会  
鯖江市社会教育委員会  
協力  
丹南愛護センター鯖丹支所

# はぐくみ

家庭教育を考えるシリーズ



8号

## はぐくむことを今一度 考えてみましょう

—おじいちゃん、おばあちゃんとのふれあい集会より—  
(河和田小学校児童)

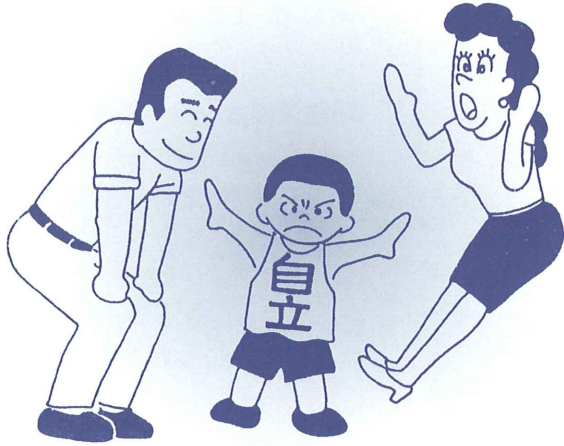


# 教えるよりはぐくむ時代

## 変えよう！親の視点

『はぐくみ』五・六・七号では「家庭のしつけ」について考えてきました。家庭のしつけは子どもの将来にいかにか大切であるかということ、多少なりとも御理解いただけたでしょうか。

今号は、それをまとめて考えてみることにいたします。



### 「自立心をもった人間に」

自立心といってもいろいろに解釈されますが、いちばんわかりやすいのは、その反対の心を考えてみることです。

それは、依存心ということでありませぬ。

なんでも人に頼ってしまつて、「誰かがやってくれるだろう」とか、「誰かがなんとかしてくれるはずだ」と、すぐ安易に考えてしまう心や、態度のことです。自立心を養うとは、こうした依存心の度合いを少なくして

いくことなのです。つまり、自分でやってみよう、という積極的な心を培い、その活動の範囲を前向きに拡げていくことだと思います。

両親の甘やかし過ぎやかまい過ぎは、子どもの自立心を養ううえで大きな障害になっていけると言えるのではないのでしょうか。

### 「人に迷惑をかけない感性豊かな人間に」

人間は、お互いに助け合い、補い合つてはじめて生きていける存在なのです。もし、自分だけの欲望を満

たすため、他人にどんな迷惑をかけてもかまわないとしたらどうでしょう。そこには正常な家庭や社会は存在しません。だからどこかでお互いが自己をコントロールする自覚が必要となってくるのです。

また、個人が意見を持つということとは、自分の意志を持つということです。とても大切なことです。だから、人の意見も尊重して素直によく聞き、お互いに協調すべきことはする、こういう態度が社会人の良識として要求されてくるのです。

さらに、「思いやり・共感」ということを示唆するもの

・感動・創造性」といった感性は、個人にとつても家庭・社会にとつても欠くことのできない大切な要素です。

他人や社会に迷惑をかける感性豊かな人間に育つてほしい、これは、誰しも願っています。

### 「強い心を持った人間に」

「人生とは、どんな羅針盤をもつても予測できない航海」と言つた人があります。今、あなたの子どものさんが将来どんな人生を歩

くことになるのか、それは誰にも予測できないことです。でも、もし、どんなに苦しくつらいことに出会つても、それを乗り越えて生きていってほしい、親なら誰でもそう願うだろうと思

います。その乗り越えることと誤解している人が多いのではないのでしょうか。学問はできるが、人間として全く失格、という人物が生まれるのは、そのあか

## 親の価値観を変える時代

教育の『教』という字は、お・し・え・る・と・読・み、学問や技術を教えることで「育」といふ字は、そ・だ・て・る・と・読・み、生まれた子を長い年月手塩にかける、というところから生まれた文字なのです。知識や技術は教えればわかりますが、人間性は育て

最近、次のような意見に出会いました。「魚を与えるより、釣を教えよ。」意味は「与えているばかりではダメで、自分で獲得してやるように仕込みなさい。」ということ。かつては、ビタミン欠乏症にはビタミンを補給すればいい。字の知らない人

は字を教えればいい。愛情不足には誰かが愛してやればよかつたのです。しかし今は、すべてにわたって潤沢すぎるほど与え

られています。その結果、いろいろな問題が起きてきているのです。家庭のしつけや子どもの教育について

### 心を鬼にできますか？

も例外ではありません。与えられすぎた結果として発生したこの種の問題には、いったいどう対処した

